

1

平成27年度

文教大学付属中学校
入学試験問題

《国語》

《注意事項》

1. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
2. 問題は 一 から 二 まであります。
3. 解答の字数は 、。「」を含みます。

一 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

自分が自分であることは、ひとりではできない。人間がたつたひとりで生きているものなら、個性という概念^①にしてからが、意味を失う。おおぜいの人間の中であつてこそ、きみの個性というものも、意味を持つてくるのだ。

A、他人の目にさらされることなしには、個性なんて、ソンザイ^aしようもない。他人に見られることで、自分は育つていくものだ。他人の目という、もちろんのことに、きみにたいして好意的とはかぎらない。悪口をいったり、いじわるな目で見たりする、そうした他人である。

そうした他人の目をおそれることは、自分を生かすのに、マイナスになる。だれにも悪口を言われない人間になろう、なんて心掛け^{こころが}ていては、その心掛けだけでイヤな人間になつて、そのことで悪口を言われるだろう。べつに、他人がきみをいじわるな目で見たつて、どうということもない。他人^②というのは、そういうものだし、それだから他人というものは役にたつ。

きみに好意的な目を向ける人もあるだろうが、そうした人とだけつきあうようには、しないほうがよい。そんな人とだけつきあつていては、かえつて、自分を失つてしまう。どちらかといえば、多少はいじわるなところもある、イヤな他人のほうが、つきあいがいるというものだ。他人を気にしないということは、気にしないですむ他人とだけつきあうことではない。むしろ、できるだけ気になる他人こそ、他人らしい他人なのだ。

そうして、他人の目に自分をさらしていくには、いやおうなしに、自分が作られていかねばすまない。ただし、まだ自分が作られていない^④くて、自信がないから、なるべく他人の目に自分をさらさぬようにしよう、というのは、まったくつまらないことだ。

そもそも、自信というものは、いろいろな経験をしたり、いろんなものを獲得^{かくとく}していつて、身につくものだとは、ぼくは思わない。そうしたことに關しては、いろんな経験をしたり、いろんな知識を身につけるにしたがつて、ぼくなんかむしろ、だんだんと自信がなくなった。若いころの、なにも知らないときが、いちばん自信があつた。

経験もなく、知識もなく、ただありのままの自分を信ずることが、自信だと思ふ。だから、サイショ^bのなにもなしの自分に、自信を持てば

よいのだ。そして、その自分が他人と関係を取りむすぶなかで、自分は育っていく。さきに自分が確立して、それから関係がとりむすばれるのではない。

ここで、他人の目の間に自分をおく、とは言っているが、それはやはり、結局は自分の目なのかもしれない。ひとりきりで、自分で自分を見るなんて、できるかどうかあやしい。

鏡にうつして、鏡のなかの自分を見る。そのとき、きみは、鏡のなかの自分から、ここに立っている自分が見られているような、そんな気になることはないだろうか。

他人によって見られるというのは、ひょっとすると、この逆のような気もする。他人に見られているようでも、じつはその他人の目というものはきみ自身の目で、きみが他人のところからきみ自身を見ている、そんなところがある。

きみがべつの他人でない以上、きみが気にしている他人の目というの、結局は、きみが彼に投影した、きみ自身の目だ。きみのシハイする心は、きみ自身の心だけであって、他人の目の姿をとっているのも、おそらくは、きみの心のほうだ。

こんなに多くの他人の数だけ、きみの心をうつす鏡があったりしては、[※]四六のガマみたいなものでやりきれぬ、と思うかもしれないが、人間が生きていくというのは、そうしたものだ、と、ぼくは思う。それに、人間はガマではないのだから、そんなことでアブラアセなんか流さずに、生きていくべきだと思う。

考えようによっては、他人の目を自分の目と二重うつしにしてみるのも、ちょっとオツなものだ。自分と違う他人と思うからおびえていたのが、なんだ、結局は自分のカゲにおびえていたのか、ということにもなる。

うによつては **C** よりおそろしいものだが、それでもこれが **D** だと思えば、あきらめもつくじゃないか。

それで、多くの他人の目にかこまれて、そのなかで自分であること、それはきみが、自分の目で自分を見、自分の心で自分を作っていくことだ。

自分は自分だ、というのは、けつしてひとりぼっちということではない。逆に、多くの他人の目のなかにあつて、自分は自分なのだ。

(森毅『まちがったっていいじゃないか』)

(注)

※ 四六のガマ 筑波の油売りが、油を売るときに口にする言葉の一部。四方を鏡で囲った中に置かれたガマガエルは、自分のみにくさのためにあぶら汗を流すという。

問1 — a r e について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ直しなさい。

問2 — ①「人間がたったひとりで生きているものなら、個性という概念にしてからが、意味を失う」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア どれほどすぐれた人物でも、多くの人の助けがなければ生きていけないから。
- イ 他人にはない自分らしさというものは、他人なしには成り立たないから。
- ウ 人が自立して生きるためには、他人にふりまわされてはならないから。
- エ 人生の価値の大きさは、友人の数の多さによって決まるものだから。

問3 **A** に入るものとして、最も適切なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア しかし
- イ しかも
- ウ だから
- エ なぜなら

問4 — ②「の」と同じ用法のものとして、最も適切なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 私の夢は保育士になることです。

イ 冬休みにはどこへ行ったの。

ウ がんばったのにうまくいかなかった。

エ せっかくテレビを買うなら大きいのがよい。

問5 — ③「他人らしい他人」とはどのような人ですか。最も適切なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 多少はいじわるなところがあっても、自分のことを本当は理解してくれる人。

イ 自分にとってあまり好意的とは感じられない、つきあいにくいところのある人。

ウ 今までにまったく見たことも話したこともない、はじめて出会った人。

エ いつでも自分に好意的な目を向けてくれる、他人とは思えないような人。

問6 — ④「いやおうなしに」の、ここでの意味として、最も適切なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア どうしても

イ 悲しいことに

ウ なんとかして

エ 一生けんめいに

問7 — ⑤「まだ自分が作られていなくて、自信がないから、なるべく他人の目に自分をさらさぬようにしよう」とありますが、筆者がそれを「つまらないことだ」というのはなぜですか。文中のことを用いて四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問8 — ⑥「それはやはり、結局は自分の目なのかもしれない」とはどういうことですか。最も適切なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の目というのは他人には理解できないものであり、結局は、自分をわかってもらうことはできないということ。

イ 他人の目というのはあくまで自分が想像したものであり、結局は、自分の見方があらわれたものだということ。

ウ 自分の目というのは自分でさえ理解できないものであり、結局は、他人の目を受け入れるしかないということ。

エ 他人の目というのは自分ですすんで想像するべきものであり、結局は、自分の感覚をみがく必要があるということ。

問9 —

B	D
---	---

 に入るものの組み合わせとして、最も適切なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア B 他人 C 自分 D 自分

イ B 他人 C 自分 D 他人

ウ B 自分 C 他人 D 他人

エ B 自分 C 他人 D 自分

二

北野は中学の美術教師であるが、上原をはじめとする何人かの生徒の授業態度が悪く、頭を悩ませていた。そこである日の昼休み、北野は突然教室を訪れ、自分の思いを生徒たちに伝えようとする。

以下の文章はそれに続く場面である。次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

「せんせー、もういいですか。おれら、サッカーしたいんですけど」

上原が、^(A)ふてふてしいうすら笑いをうかべている。

「美術なんか、時間のむだだし」

その表情に、わずかな⁽¹⁾狂気の粒子がまじっているのを感じたとたん、北野の体のおくでぞろりと何かが地面をはうような鈍い音がした。

自分の中にあるものが上原の中にもある。北野は確信した。二つは独特の波長を探りあい、勝手に共鳴しているらしい。

その証拠に上原の目には、鈍い光がやどっていた。ぞっとするようなす黒い光だ。いけない。

北野は両手で机のはしをにぎり、足をふんばった。

「美術を、芸術をばかにしないでほしい」

しほり出すように言う。

「いばるな、へほのくせに！」

呼応するような声が返ってくる。上原の狂気が今まさに飛び出してこようとしていた。未成熟でむき出しのままの幼稚な力だ。

北野はぐっと、相手の目を見すえた。全身全霊で、黒い光をおさえつけるように。

だいじょうぶだ。

自分に言いかけせる。少なくとも自分のほうが魔物をコントロールする力はあるはずだ。もう何十年も飼っているのだ。⁽²⁾たかだか十四歳の^(B)上原などとは格がちがう。

上原の胸をにらむ。上原の中に巣くう、魔物の目をとらえる。

北野は歯を食いしばった。そのすき間から、^(B)おし殺したような声が出た。

「ああ、おれはへぼだ」

おし殺されてはいるが、不思議な響きを持った重低音に教室中が静まりかえった。

「芸術にすがってしか生きられない⁽¹⁾へぼだ。だけど、だからこそ、芸術の輝きを知っている」

その表情がどう迫ったのか、数人の生徒が身をちぢめ、あどすさった。上原さえも⁽²⁾ひるんだように口をつぐんだ。が、すぐに、

「なんか、やば。行こうぜ、みんな」

と、声をあげた。精いっぱい強がっているが、負け犬のふるまいだった。そばにいた同級生の腕を引っぱるようになって歩きだす上原の背中に、

北野は小さく息をひとつついた。

「ほかにも用のある生徒は出ていつてかまいません」

落ち着いた声でそうながすと、数人の生徒が目くばせしながら出ていき、教室に残ったのは半分ほどの生徒になった。その中に湯川もいた。が、顔をあげてはいなかった。北野は生徒たちを見渡す。深い息をひとつはいて呼吸を整えた。

「みなさんは、絵や陶器や彫刻を見て、⁽³⁾きれいだとか、⁽⁴⁾すてきだなと感じたことはありませんか？」

数人の生徒がうなずき、数人の生徒が考えるようにだまつている。

「では、洋服とかアクセサリなどにはどうですか？」

「洋服は大好きです。アクセサリとかもかわいいし」

いちばん前に座った女子の生徒が言った。

「そうですね。じゃあ、あなたがかわいいアクセサリを見たとき、どんな気持ちになりますか」

「うーん、なんかどきどきする」

女子生徒は明るい顔になった。

「ときめくっていう感じでしょうか。ともかく心が明るくなりますね」

北野の言葉に女子生徒はうなずいた。

「それが芸術作品が人の心にもたらす最大の力です。何もかもが八方ふさがりで落ち込んでしまったとき、芸術が心にふつとわずかな光をもたらすことがあります。芸術は、胃袋は満たしてはくれませんが、心には響く。豊かな気持ちになるんです」

北野の言葉に、最前列の女子生徒が首をひねった。

1

2

教室の中に笑いがおこった。しかしそれは空気をやわらげるのに有効な笑いだった。

3

後ろの女子生徒が言った。声はずんでいる。

「それにさ、服を着たときのこととか、想像すると楽しい」

ほかにも同意の意見が出された。そこにひとりの男子生徒が声をあげた。

「先生、今は芸術の話をしているんですね。服とかアクセサリーとかとは、根本的にちがうんじゃないですか。服なんかは、どんどん売らなきゃいけないから、美しさがわかりやすいけど、芸術はわかりにくい。むしろ、わざとわかりにくくしているものもあると思います。わかりにくいものが、心に響きますか」

熊谷という男子生徒だ。なかなかうがった指摘である。

「そうですね。だから学校で、学習や訓練をしているんです。ほかの教科と同じです。芸術も勉強をしないとわかるようにならない。いや、そうじゃないな。親しんでいるうちに、わかるようになるんだ」

北野は顔をあげて、教室を見渡した。生徒たちの表情が少し輝いて見えた。言葉を重ねる。

「美しさに敏感になつてくるんです」

思春期の心は、向こう側にごく近いところにあると北野は常々思っている。この時期には、心が追いつかないくらい、体が一気に変化する。自分でもとまどってしまうような、アンバランスやひずみが向こう側につながる通路を作りだすのだとしたら、思春期は芸術にもっとも近い

時期と言える。

「人生の中でいちばんやわらかな心を持つきみたちは、本当はそれがよくわかっているはずなんだよ」

切実な声が出た。なぜだか生徒たちの顔が判別できなかった。フィルターがかかっているようにぼんやりとしている。けれど、彼らのまなざしだけは感じられた。まるで光の塊のように、尊い。

北野は目を細める。

「よかったら」

北野は うわずりそうになる気持ちをおさえて、ごく平坦な声を出した。

「この先は、今出ていった生徒たちにも伝えてください」

教室にいる、ひとりひとりの顔が北野の視界にもどってくる。それを確認し、出ていった生徒の顔も思い出す。

「きみたちにもこの先、いろんなことが起こるだろう。もしかしたら、ものすごくつらいことがあって、もうどうしようもなくなって、死にたいと思うようなときさえるかもしれない。そんなときにはぜひ、美術館に飛びこんでほしい。常設展なら、百円くらいで見られるところもある。たった百円で、きつと心になんらかの作用があるはずだ。うそじゃない。芸術は人の心を救う。芸術っていうのは、そういうものなんですよ」

北野は言いきった。自分の中の魔物にも届くように。自分の魔物が芸術を創りだすことに昇華され、それを生徒に伝えていけるようにと、祈りながら。

(まはら三桃『伝説のエンドーくん』)

問1 〓(A)〓(C)のことばの意味としてア、ウから最も適切なものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | |
|------------|----------------|--------------|-----------------|
| (A) ふてぶてしい | ア 開き直っていてずぶとい | イ ずるがしこい | ウ 人を見下した |
| (B) おし殺す | ア はげしく責める | イ 感情をぐっところえる | ウ 怒りを静める |
| (C) うわする | ア 恐怖から逃げ出したくなる | イ 緊張して体が固まる | ウ 興奮して落ち着きがなくなる |

問2 ①「狂気の粒子」を言いかえている部分を十三字でぬき出しなさい。

問3 ②「たかだか十四歳の上原などとは格がちがう」とは、どのようなことですか。その説明としてア、エから最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自分は生徒を指導する立場であるから、上原が失礼な暴言をはいたとしても、冷静さを失わずにさとすことができるということ。
イ 自分は美術の教師で、芸術作品についての知識は学生とは違うのであるから、芸術をばかにしたような態度をとる上原でも指導できるということ。
ウ 上原が持っているような狂気は美術の才能につながるものであるが、自分は何年もそれをみがいてきたので、上原とは実力がちがうということ。
エ 上原が心の奥に持っている狂気は、自分も昔から持っていたものだが、うまくコントロールできない上原と違って、自分は抑えられるということ。

問4 ①(1)〓(4)の中で、ことばの種類がちがうものを一つ選び、記号で答えなさい。

問5 ① 〓 3 〓を補うのに適切な会話をア、エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 「芸術とアクセサリーはどちらがうのですか」
イ 「でもさ、どきどきするっていうことは、気分が上がるってことじゃない？ 落ち込んでいたならちよつとは元気になるよね」
ウ 「だってアクセサリーを見て、どきどきしたあとは欲しくなるもん。見ただけでは心が満たされない。どっちかというと、飢え渴く感じ」
エ 「実感がありませんか」

問6 ③「服とかアクセサリーとかとは、根本的にちがうんじゃないですか。」とありますが、男子生徒はどのようなちがいがいると思っ

問7 ④「なぜだか生徒たちの顔が判別できなかった」とありますが、それはなぜですか。その説明としてア、エから最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 思春期という、かけがえのない時を生きている生徒たちを見ていたら、昔が思い出されてきて、目の前の生徒たちに過去の自分を重ねていたから。
イ 授業態度を改善させるためにクラスにやってきたが、生徒の素直な面を見ているうちに、生徒一人ひとりの存在が尊くいとおしいものと思え、感極まってきたから。
ウ 思春期の不安定な心は芸術にもっとも近いところにあり、その存在の尊さで生徒が輝いているように感じられ、目がうるんできたから。
エ 芸術のすばらしさについて語っていたら、自分でも感情が高まってきて、周りの風景が見えないように感じられ、涙が浮かんできたから。

問 8 — ⑤「芸術は人の心を救う」とありますが、なぜこのように言えるのですか。文中のことはを使って五十字以内で説明しなさい。

問 9 次の — 部の漢字には読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① サンソがないと呼吸ができない。
- ② 病気がナオる。
- ③ キチヨウな体験ができた。
- ④ 日本は多くの食物を輸入している。
- ⑤ 戦争の過ちを繰り返すな。

(このページに問題はありません)

I

1000

問
1

d		a	
	姿		ソンザイ
e		b	
	相当		サイシヨ
		c	
			シハイ

問 2

1880

問
4

1000

問 5

1000

問
6

1850

問7

[illegible]

問
8

1800

問 9

1001

問
1

A	
B	
C	

問 2

[illegible]

問 3

1000

問
4

1001

問
5

1	
2	
3	

問 6

[illegible]

**問
7**

問 8

[illegible]

問
9

④		①	
	輸入		サンソ
⑤		②	
ち	過ち	る	ナオる
		③	
			キチヨウ

—	
— —	

得点	
----	--

受験番号	番	氏名	
------	---	----	--